

こどもの病気対策法^⑫

ー風疹(ふうしん)ー

小宅医院 小宅民子

風疹は風疹ウイルスによっておこる急性の感染症です。潜伏期間は2〜3週間で、感染経路は、患者さんの咳やくしゃみにふくまれるウイルスを吸い込むことによる「飛沫感染」が主ですが、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。周囲へ感染させる期間は、発疹の出現する前後の1週間程度とされています。主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れが認められます。まれに脳炎、血小板減少症、関節炎などを合併することがあります。

免疫のない女性が妊娠初期に風疹にかかると、風疹ウイルスが胎児に感染し、赤ちゃんに先天性風疹症候群を引き起こすことがあります。主な症状は心疾患、難聴、白内障です。先天性風疹症候群を発症してしまうと、確実な治療法はなく、あらかじめ風疹ウイルスに対する免疫を付けることが有効であり、ワクチンによる予防接種が強く推奨されます。

本年度、首都圏を中心に風疹の流行の兆しがみられています。20週までの妊婦さんは風疹にかからないように、また風疹患者さんに接触しないよう十分注意して下さい。現在風疹にかかっているのは30〜50代の男性が中心です。この年代の男性は風疹の免疫を保持していない人が多く、風疹にかかりやすい年代です。配偶者を含め職場など周囲の風疹感染者の発生状況には十分注意して下さい。

1歳児及び小学校入学前年度の子どもには麻疹・風疹(MR)ワクチンの定期接種があります。津久見市では、妊娠を予定又は希望する女性及びその夫を対象として、麻疹・風疹ワクチンの一部助成を行っています。自分自身が風疹にかからない、妊婦さんに風疹をうつさない、その赤ちゃんが先天性風疹症候群にならないためにも予防接種をうけましょう。

風疹の5つのポイント

- ・ 感染の期間は発疹がでる1週間前・後。
- ・ 治療薬はない。
- ・ 2回の麻疹・風疹(MR)ワクチンで予防ができる。
- ・ 妊娠初期に感染すると、赤ちゃんが先天性風疹症候群にかかることがある。
- ・ ワクチンを受けてない、風疹の免疫がない大人もワクチンによる予防が必要。

